

秋冷の候 宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部会員の皆様には益々ご健勝のことと、衷心よりお慶び申し上げます。また日頃より皆様には当支部運営に際し、特段のご協力を賜り改めて厚く御礼申し上げる次第です。

さて9月の自衛隊関連行事では24日の空自高畑山分屯地観月会に参加したところ、生憎の空模様で仲秋の名月は拝めませんでした。が、隊員の元気の良いパフォーマンスや串間市民による日本舞踊などの心温まる歓待を受け、お陰で楽しい一時を過ごすことが出来ました。

人里離れた都井岬突端の山頂に24時間態勢でレーダー監視する隊員がいてくれるからこそ、我々国民は安穏とした日常を過ごすことが出来るわけで、彼等の言葉では言い尽くせぬ労苦を偲びながら、山本司令以下隊員の皆様に改めて深甚なる感謝を申し上げます。

また自民党総裁選も下馬評通り安倍首相の圧勝で幕を閉じ、いよいよ憲法改正に向けての動きが活発になろうかと思いますが、我々も年内にも予想される国会発議を受けて国民投票への準備を抜かりなく始めねばなりません。～既に一部着手している項目もありますが(^\_^)

石破さんや水月会の皆様も総裁選が決着した以上は「議論は水際まで」で打ち切り、持論を引っ込め自民党が決定した「自衛隊明記」に向けて、共に汗を流して頂けるものと信じています。

そして30日は沖縄知事選の投開票日で、この支部長通信が皆様のお手元に届く頃には新知事誕生の報に接していることかと存じますが、尖閣を始めとする国境の島々を守るために必要な措置や施策を支持する知事に是非当選して頂きたいと、国民の一人として心底そう思います。

仄聞すれば日本の離島数は全部で6852有り、島嶼防衛で想定される島は鹿児島県の531と沖縄県の270のうちどこかであるとされておりますが、この801の島々に敵の上陸を待ち受ける部隊を展開させておく事は非現実的で、何故ならそこまで自衛隊の部隊は多くないからです。...

敵が上陸してくるであろう島もある程度の目星はついていますが、事前に防御部隊を配置してしまうと周辺諸国の感情を逆撫でする事になるので積極的な配備は行わないでしょうし、先月の「富士総火演」でもここ数年のテーマは「離島奪還」であり、陸の主役は即応機動連隊が装備している16式機動戦闘車と、水陸機動団に配備されたAAV7でした。

特に16式の機動力と破壊力には目を見張るものがあり、30tと軽量のためP2で空輸できれば島嶼奪還やその後の防衛には最適の兵装かと感じましたし、これにオスプレイの機動力を連動させれば鬼に金棒なのでしょうが、ご存知の通り佐賀空港の使用が決定されておらず配備計画に遅延が生ずるとの報道も、誠に気懸かりなところではあります。

そこで今月も小川先生のメルマガから下記の一文を引用させて頂きましたので、何卒ご一読賜り、皆様からの多様なご意見等お聞かせ願えれば幸いです。

## ・中国の「上陸作戦能力」の読み方

### 尖閣・台湾視野か、中国上陸部隊3倍に…米報告

8月18日の読売新聞朝刊は、国民の危機感を喚起するには十分大きな扱いのニュースでした。

これについては、次のような趣旨でコメントしておきました。

1)この陸戦隊の主要な任務は、東シナ海においては日本の尖閣諸島などの争奪、南シナ海では岩礁を埋め立てた軍事施設の防衛など、ジブチをはじめとする海外軍事施設と在外公館の警備などと考えられる。

2)しかし、台湾への本格的な上陸作戦能力はない。

その理由として、次のように書いておきました。

「軍事輸送の船積みの計算式を知っている人間なら、それは常識だ。

私たちが習った旧ソ連軍の平均的な自動車化狙撃師団(機械化歩兵師団)は定員1万3000人、車両3000両(うち200両弱が戦車)だったが、これに1週間分の燃料・弾薬・食料を持たせる場合、50万トンの船腹量を食ってしまう。

この計算式は中国軍にも、他の国の軍事力にも当てはまる。

一方、台湾側は対艦戦闘能力を突出させている。台湾海峡の航空優勢(制空権)を握るためにも、戦闘は熾烈なものとなるだろう。

これを撃破して上陸、占領ということになると、100万人ほどの部隊を発進させ、半分がかろうじて上陸できるだけの大上陸作戦となる。

米国防総省の年次報告書は数年前まで、中国軍は一度に1万人の上陸部隊を発進させることしかできないとしていた。それは輸送能力の決定的な不足による。

「ここ数年で一挙に輸送能力を獲得できたとは考えにくい」

しかし説明が十分ではなかったのではないかと気づきました。船積みの計算式の考え方です。

実は、私も陸上自衛隊で幹部学校長を務めた先輩に教えてもらうまでは思いもよらないことでしたが、船積みは重量トンではなく容積トンで計算するのです。

たとえば、旧ソ連のT72戦車の初期モデルは重量41トンですが、これは90容積トンの計算になります。人間一人は、体重65キロの私も、169キロの栃ノ心も4容積トンです。

考えればわかることですが、**突きだした戦車砲の長い砲身**などで戦車の周りには無駄とも思える**空間**ができます。立方体や長方体に加工した粘土細工を隙間なくぎっちり詰め込むようなことはできないのです。**人間も、ぎりぎりだとして生活空間**のようなものが必要です。

かくして、定員**1万3000人**の自動車化狙撃師団を運ぶのに**50万トンの船腹量**が必要ということになるのです。

これを見れば、1977年ごろに叫ばれた「**北海道に何十個師団ものソ連軍が上陸してくる**」という「**北方脅威論**」は、ことごとく永田町発の**フェイクニュース**だったことがわかるでしょう。

米軍も陸上自衛隊も「**極東方面の小舟までかき集めてもソ連軍は3個師団を運ぶのがやっとで、その半分は途中で撃沈されるから、北海道への侵攻能力はゼロ**」と見積もっていたのです。

私たちは、これからも叫ばれるであろう「**台湾危機**」「**尖閣危機**」「**南西諸島危機**」について、**冷静かつ客観的な見方**を身につけ、**着実に防衛能力**を備えていかなければなりません。以上

これは中国人民解放軍陸戦隊が台湾を侵攻することを想定した話のようですが、我々素人でも大軍が海を渡ることを大変さが概ね理解でき、いくら飛行機やロケットを飛ばして攻撃しても「**グラウンド・オン・ザブーツ**」をしなければ、占領した事にはならぬのは軍事の常識です。

中国軍の意図は計りかねますが空母「**遼寧**」を始め同型艦をあと3隻建造中とか、長距離爆撃機や護衛戦闘機数機が宮古水道を通過し太平洋経由でバシー海峡から帰投したとか、原子力潜水艦が潜水したまま同水道をすり抜けたとかのニュースを聞けば、彼等の云う「**第一次列島線**」はおろか、「**第2次列島線**」までも防御範囲として活動していることは歴然であります。

3選目を迎える安倍首相には、純然たる国内問題であるはずの憲法改正にまでいちゃもんを付ける中国、北朝鮮、韓国等の不埒な内政干渉は毅然たる態度で跳ね返して頂き、肅々と憲法改正の手順に従い、「**自衛隊明記**」・「**緊急事態条項**」等の喫緊の課題に対応すべく、歩武堂々の気概を持って前進して頂きたいと存じます。

スポーツの秋、芸術の秋、そして食欲の秋などetc、支部会員の皆様も最高の季節を存分に楽しんで頂ければ幸甚に存じます。また自衛隊関連行事もこれから目白押しで、その都度ご案内申し上げますので、お時間の許す方々は何卒挙ってご参加下さい。

平成30年10月1日

宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦